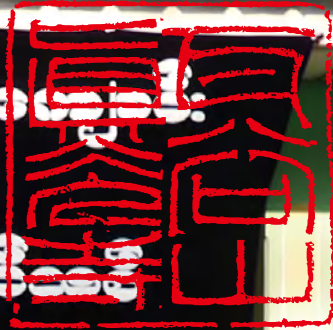


瓦谷山



瓦谷山だより



vol.31

ミャンマー ミャレイヨン寺院小学校にて

発行日 2016年3月吉日
発行人 (宗) 真光寺 岡本和幸
印刷 現代社
編集 (宗) 真光寺

問い合わせ先
(宗) 真光寺
TEL 0438-75-7414

〇お寺HP
<http://www.shinko-ji.jp/>
〇上総自然学校HP
<http://www.shinko-ji.jp/satoyama/>
〇お寺ブログ【瓦谷山だより】
<http://shinkoji.cocolog-nifty.com/news/>

ごあいさつ

今年の冬は異常な高温が続き、二月中旬には木々の芽吹きが始まっています。過ごしやすいのはいいのですが、冬の山仕事が追い付かないのが悩みです。

真光寺の旧本堂は、真光寺入り口左手の墓地「溪照苑」の場所にありました。住職地を探していた私は真光寺を紹介され、二度見学に来たのですが、一度目はあまりに荒れていて、「とてもこの寺に住むことはできない」と思いつつ、帰宅の途に着きました。二度目に来たのは五月の連休の頃の、大変お天気のいい日でした。穴が開いていた台所から入って本堂の板戸を開け放つと、目の前の山に紫色の藤の花が大きく広がり、背景の緑と調和して、実に見事な美しさでした。その風景を見ながら縁側で缶ビールを飲み、お弁当を食べているうちに、何となくここが私の護る寺のように思えてきて、移住を決意したのです。

後にその藤がある場所も、真光寺の所有地であることを知りました。そこは旧跡川原井里見城の一部で、御神木といわれる樹齢四百年程のスダジイがあり、藤は、この巨木にかかるものだったのです。スダジイの根元には、当地で十二神将様じゅうにしんしょうといわれる小さな石の祠ほこらがありました。十二神将は薬師如来の眷属けんぞくで、薬師如来を信仰する人を守護してくれます。薬師如来は東方薬師といわれるように、東側におられ、私どもを庇護しているといわれます。

十二神将の祠というのはとても珍しいものです。おそらくこの地が城跡であることと関係があると思われます。旧本堂の御本尊は釈迦如来でした。ところが旧本堂の須弥壇を整理していたら、切り取られた阿弥陀仏の印相を結んだ手が、ネズミの糞の山の中から出てきたのです。恐らく廃仏毀釈後、明治政府による宗教統制の混乱の渦中に阿弥陀如来の手を作り変え、釈迦としたのでしょう。阿弥陀如来といえ、西方極楽浄土の仏様です。おそらく東のお薬師様と西の阿弥陀様で、真光寺のある川原井新田地区の入り口を守護することを意図したと想像できます。この祠には元禄十九年の銘

があり、真光寺が中興された頃のものと思われる。穏やかな生活を希求した、当時の人たちの願いが込められた祠であると考えられるのです。

現在、真光寺仏殿のご本尊は薬師如来です。心の病が蔓延するこの時代に、この寺が少しでも病を減らせる場所になるようにという祈りを込めて拝請はいしやうしましたが、同時に前記のような因縁もあり、私自身が薬師如来に招かれたような気持ちもあって、拝請はいしやうすることを決めました。禅宗寺院の仏殿の御本尊は釈迦如来が一般的です。真光寺の仏殿の薬師如来も、いずれ境内東側に薬師堂を建立してお祀りする予定です。すでに遺跡調査も終わり、図面も木材も用意できているので、資金の目途がつき次第すぐに着工致します。



台座の石を新造しました。

檀家役員の皆さまと修繕を行いました。



さて入山後、裏山の整備をしていくうちに、藤がはびこっている山は、人の手が入らない荒れた山の証であることを学びました。自然の見えざる手は、藤やアケビなどのつる性植物によつて人間が植えた落葉樹を枯らし、里山の森を当地元来の照葉樹原生林へと戻そうとするのです。こうした知識を得たことにより、私は山の荒廃を止めるため、里山再生活動に傾倒し、それが樹木葬墓地の整備を志すことへもつながったのですが、そうになると、ご神木に掛かる巨大な藤を見過ごすわけにはいきません。毎年の花見をあきらめ、思い切って巨大な藤づるを取り除くと、弱っていたスダジイは、みるみる元氣になりました。もしかしたら御神木は、自身を蝕む藤づるを私に切つてほしかったのかもしれません。

十二神将様の祠は、東日本大震災の時にスタジイの木の目の前の崖下に転落してしまいました。急ぎ石材店に台座を注文したのですが、山が荒れている上、急な崖に囲まれ道路もなく、石材や資材を上げることができぬままに四年の月日が過ぎました。しかし本誌でもご紹介しているように、このたび檀家役員とご近所の鈴木さんのご奉仕で立派な祠を建てることで、ようやく念願がかないました。

今回のことを端緒として、川原井里見城跡公園のような形を目指し、山全体の整備に取り掛かりたいと思っています。川原井里見城は袖ヶ浦市内最大級の城跡であり、山にはわずかですが神社跡や柵、戦闘に使ったと思われる石つぶてなど城の痕跡や、地元の方が浅間様と呼んでいる祠などがあり、薪炭林もわずかに残っています。「浅間様」では数年前まで『遠野物語』にある「野遊び」に似た花見の風習がありました。地域の人々の思いが残っているうちに、散策道を作り、桜や紅葉を中心に植栽を配すなど、良い環境を残し、川原井地域のシンボルとして保存し、次代に残せないかと考えているのです。さらにはスタジイのご神木の前の崖も、できることなら何とかしたいと思っています。そうした山林整備のために、もう少し寒い日が続いてくれないかと思っていますが、残念ながら、今年は暦よりも季節の歩みの方が早いようです。

真光寺の桜は年々大きくなり、いろいろな花々が初夏まで途切れずに咲き乱れるようになりました。この好時節、大勢の皆様のご参詣をお待ちしています。 合 掌

真光寺住職



ご寄進者ご芳名

金 壱千 萬円 塩崎 照代様

ご寄進いただき心より御礼申し上げます。皆様からのご寄進は諸堂建立に充てさせていただきます、食堂の寄進芳名単にお名前を記し、永く寺録に残させていただきます。

書院建設日記

昨年の3月に着工した新書院がもう間もなく完成の運びとなりました。多くの檀信徒、縁の会会員の方々から「皆様の役に立つ建物の建設のために使ってください」ということで多数のお布施、ご寄進をいただきました。そしていよいよ竣工の日を迎えられることに岡本住職はじめ、真光寺職員一同感謝の念に堪えません。今後はこの新しい書院を活かし、お寺での行事や様々な活動の充実を目指して参りたいと思っています。また、竣工後は皆様へのお披露目の場も計画しておりますのでその際には是非足を運んでいただき、ご覧いただければ幸いです。



行事報告

◇十二月二十八日 餅つき

真光寺では一昨年前より十二月二十八日に暮れの餅つきを行っております。新年を迎えるにあたり、仏様にお供えする鏡餅と、精進料理や保存食に用いるのし餅を作ります。また、当日参詣された方にはつきたてのお餅を召し上がっていただいております、今年はお餅のお供に絞りとての生醤油と大根おろし、温かい豚汁を添えました。



鏡餅は自称「真光寺の餅職人」である椎野が手際よく丸めていきます。お餅の気持ちいが分からないとなかなか上手く丸められないそうです。

◇一月三日 修証会年頭祈禱法要

檀信徒の方と新年の安全・厄除け・諸願成就を祈念して修証会が行われました。法要後にはワハハ本舗の若手芸人による余興を楽しんでいただきました。新年の笑い初めです。



◇一月二十八日 紫陽花の会（味噌づくり）

一月の紫陽花の会では職員の糸田が手塩にかけて育てた大豆と、自家製の麴を使って味噌を作りました。今年の冬には皆さんに召し上がっていただけたらと思います。ちなみに味噌が黒っぽいのは黒豆を使用しているからです。



◇一月七日 七日法要

一月の七日法要は授戒式、月例供養の後、縁の会の方とともに餅つきを行ない昼食で美味しくいただきました。午後は年頭祈禱法要、お焚き上げが行われました。



◇一月十九日 ごま豆腐

大本山永平寺で修業された大御師によるごま豆腐づくりは毎回参加者多数の人気行事です。真光寺では練りごまを使って作るのでも滑らかかつ濃厚な口当たりと評判です。



上総自然学校

上総自然学校では冬の新しいイベントとして「七草粥作り」と「ざる豆腐作り」を行いました。春の七草はスーパードでも「七草粥セット」として簡単に買うことができる時代ですが、実際に山や畑に行き自分の目と足で七草を探し、自然にふれあう体験をしました。



七草粥作りの様子

ざる豆腐作りでは、真光寺の畑でとれた黒大豆を使い、豆を挽くところから手作りしました。今回作ったざる豆腐はご家庭でも簡単に作ることができますので自家製のざる豆腐鍋を囲んで楽しい団らんを過ごされてはいかがでしょうか。

でしょうか？今回参加出来なかった方は是非次の機会にご参加下さい。さて、いよいよ春を迎え、上総自然学校では田作りや生物観察など、野外行事が増え、自然とふれあう楽しい行事が満載の時期となります。大人から子供まで皆さまが気持ちよく楽しみ、自然を体験できる行事をたくさん企画してまいりますので、是非ご参加ください。

(糸田)

イベント日程

◇『お花見トレッキング』

・三月二十七日(日) 十三時半～十六

★『畦塗』

・四月九日(土) 十時～十六時

・四月十日(日) ※各日帰り

◆『モギ餅作り』

・四月十六日(土) 十四時～十六時半

・四月十七日(日) ※各日帰り

◇『巨木巡りトレッキング』

・四月二十四日(日) 十三時半～十六時

★『野菜作り・春(夏野菜の定植)』

・四月二十九日(金・祝) 十時～十六時

◆『サツマイモ植え&レンゲトレッキング』

・五月五日(木・祝) 十三時半～十六時

★『田植え』

・五月十四日(土) 十時～十六時

・五月十五日(日) ※各日帰り

◆『古代米田植え&補植』

・五月二十一日(土) 十五時半～十八時半

◎『水路の生物観察』

・五月二十八日(土) 十三時半～十六時

●『草取り&ホタル観賞』

・六月十一日(土) 十一時～二十時

・六月二十五日(土) ※各日帰り

◎『草取り&ホタル観賞(宿泊)』二食付(夕・朝)

・六月十八日～十九日(土・日) 十三時半～翌十二時

◇『イトトンボ観察会』

・七月二日(土) 九時～十一時半

★『野菜作り・夏』

・七月十六日(土) 十時～十六時

☆『里山の昆虫探し(宿泊)』二食付(夕・朝)

・八月三日～四日(水・木) 十六時～翌十時

参加費

各イベント名の下にある記号です。

◎大人六千円/小学生三千円

●大人三千円/小学生千五百円

☆大人四千円/小学生二千円

★大人二千円/小学生千円

◆大人千円/小学生五百円 ※未就学児無料

◇五百円 ※すべて保険代込

申込み方法

①氏名 ②住所 ③連絡先 ④生年月日 ⑤血液型

⑥緊急連絡先(ご本人様が怪我をした時などの連絡先)を明記の上、メール・ファックス・電話で

お申込みください。

(連絡先は最後のページに記載があります)

平成二十七年米販売しています

里山米(残り千二百kgほど)

【品種】	こしひかり
【農薬】	いもち病予防の種子消毒のみ
【肥料】	井内牧場の牛糞堆肥のみを使用
【精米】	一時間かけて低温で自家精米
【価格】	二キロまで 玄米 五百円/kg
	二キロ以上 白米 五百五十円/kg
	三キロ以上 玄米 四百五十円/kg
	三キロ以上 白米 五百円/kg

☆玄米の残留農薬検査の結果(自主検査)

二百五十項目の農薬 検出せず(四年連続)

☆玄米の放射線測定結果(自主検査)

ヨウ素・セシウム¹³⁴・セシウム¹³⁷ 検出せず

(検出限界値 1ベクレル/kg)

☆収益金は「上総自然学校」の里山再生活動費に充当します。

古代米・もち米

【種類】	赤米・緑米・黒米・もち米
【価格】	赤米 八百八十グラム/三百円
	緑米 八百五十グラム/三百円
	黒米 八百五十グラム/三百円

もち米 三百グラム/二百五十円
色々米 三百グラム/六百円

※古代米・もち米共に農薬、肥料はこしひかりと同じ。

【ご注文方法】

①氏名 ②住所 ③電話番号 ④白米か玄米 ⑤数量
(二キログラム以上、一キロ単位)

を明記し、ファックス・電話・メールにてお申込みください。(連絡先は最後のページに記載あり)

※古代米・もち米は寺務所にて直接販売しております。「里山米」と同封して発送することも可能です。

ミャンマー視察報告

岡本住職はシャンティ―国際ボランティア会の理事を務めています。縁の会の皆さまには昨年十一月三日の縁の会総会にて、絵本を送る運動の支援活動にご参加をいただきましたことをご記憶の方もおられるかと存じます。贈答先のミャンマー国での教育現場の視察とSVA宛に送られました寄付をもとに建設した小学校校舎と孤児院の女子寮の贈呈式に参加する為、真光寺から岡本住職、山下師、椎野と三名が参加しました。

ミャンマーSVA事業視察旅行記

椎野 靖浩

我々を含む七名の視察団はミャンマー、ヤンゴン国際空港に八時間のフライトを経て二月十五日夕方五時に降り立った。天候は晴れ、気温は三三度である。空港のロータリーには車が次々と押しよせ、ビジネスマンが降り立つ。交通ルールは曖昧である。前に歩く人にならない、列車のように動き続ける自動車の隙間を縫い歩きたがらチャーターしたバスに到着した。道中のヤンゴンは大渋滞で、日本では廃車に相当するような車が多数うごめく中、高級車も点在する。



ヤンゴン中心部は渋滞が深刻化している。6車線道路を自由に歩行者と自転車なども横断、通行しており危険だ。

ヤンゴン市街はビルの建設が急ピッチで進み、海外のブランドショップや外食店もちらほらと確認することが出来る。

到着日の夕食。朝日新聞ヤンゴン支局長の五十嵐誠氏に現在のミャンマーの政治情勢と教育事情を解説していただく機会を得た。

以下はその五十嵐氏の解説の要約である。

ミャンマーの民主化は、逆の見方をすれば軍政の縮小、廃止であり、抵抗が予想される。和平を維持するためには、国全体の経済を底上げすることだ。民政が主導する経済が拡大していくことで、軍政の利権を相対的に縮小することが出来るからだ。

一方で、ミャンマーは経済成長の最中にある。

多くの外国資本が参入していて、日本からも二〇〇を超える企業が進出している。ミャンマーが新興市場としてもはやされるのには識字率の高さがある。現地人への労働力としての期待が企業進出を後押しする要因だ。しかし、実際に進出した企業からは人材に対して落胆の声が聞かれる。ミャンマー式の教育は超詰め込み教育で、言われたことを忠実に言うことは得意だが、応用力が不足しているためだ。順調な経済発展のためには人材の育成、教育が不可欠である。すなわち、ミャンマーにおける教育とは一個人の教養のあり方という問題ではなく、和平のプログラムの一部として大変重要であり、SVAの教育支援活動は大変重要だ。

以上が要約であるが、ここでミャンマーの教育事情について触れておく。

軍政下では教育への予算が低く、義務教育期間

日本の幼稚園バスも路線バスとして活躍。再塗装などはない。



の小学校（五年間）も有償である。こうした有償の小学校に通うことができない児童を救済するのが寺院学校だ。寺院学校とは寺院が主導して建設、運営する学校のこと、積極的に福祉的な存在で

あり、ほぼ無償で通学することが出来る。特に地方ではこうした寺院学校が多く、ミャンマーの十分な教育制度を補完している。

このような制度が成立する背景としてミャンマーは国民の九割が信仰する仏教の国であることにつく。仏教は上座部仏教である。僧侶は袈裟が茶系の赤から黄色でそれ以外にサンダルや眼鏡類の他、身に着けていない。仏教信仰の中でそれを体現する僧侶は、ミャンマーでは大変な尊敬を受けている。上座部仏教ではとにかく功德を積むということに信者は熱心であり、功德を積むための布施は当たり前の行為で、かつては収入の半分は布施に充てられたという。その布施は、精神的意味付けの功德と実利的な功德、すなわち福祉事業に回向（功德を特定の対象に向ける宗教行為）されていて、その一面が寺院学校である。つまり、仏教はミャンマーのセーフティネットとして機能しているといえる。

さて、二日目の早朝、我々は地方都市ピーに移動した。ピーはヤンゴンから二八〇kmの距離にあり、車で六時間かかる。



上座部仏教の僧侶

ヤンゴンから一時間ほどすると風景は農村に変わる。道中、我々の主な話題は交通事情であった。ほとんどの幹線道路は舗装された右側通行の片側一車線で、この道路にいろいろな速度が存在する。多くは乗用車と小型のバイクである。他には、荷台に多くの人を詰め込んだ乗り合いトラック、バス、自転車、牛車、歩行者と混沌としている。速い車はその他の車を追い越しながら走行することになるのだが、車の多くは日本から来た中古車で、右ハンドルで右車線であるから、追い越しは危険を伴いスリリングである。

農村風景が続く道中、およそ三十分周期で街やドライブインが現れるようになる。この間も移動する人はついに途切れなかった。宿場町はバラックで構成されていて、屋根のトタンに錆が目立ち、いかにも貧しい風体だが、どの店にも客がいた。商売も様々である。飲食をはじめスイカ売り、卵売り、竹細工売り、材木屋、中古車修理店、入れ墨屋、輪タク（サイカー）など。移動中はその街々に近づくほど車と人が増えるため、前述の理由によりクラクションも頻発するようになる。この騒音になれないうちは車中で眠りにつくとも定期的に目を覚ますことになり、その際の車は街にあるというのがこの旅行のほとんどである。

ミャンマーが多数の少数民族で構成されていることは有名である。

民族は大きく八つの部族に分けられ、全体で一三五に及ぶ民族が存在し、独立直後から現在に至るまで、少数民族による反乱、つまり内戦の歴史を持つ。現在も主なものだけでも、カレン、カチン、シャンなどの少数民族が分離独立を求めている、

静いをつづけている。

昨年にもコーカン族とミャンマー国軍との間で紛争が勃発するなど、和平交渉と並行して現在も内戦が起きている状況である。この戦禍により発生した社会的な困窮の救済にあたるのがSVAのミヤンマーでのミッションであり、さらに、こうした事態を予防する意味でも移動図書館活動などを用いた教育事業が重要なミッションである。

さて、この日、目的地のピーに至るまでにその移動図書館を見学することができた。移動図書館とは三輪バイクの改造車で、荷台に絵本を積み込めるように仕上がっている。こういえば単純なものであるが、バイクの入手と改造から荷台の製造までを現地で行うという。限られた援助資金のうちから沢山の、そして扱いの良い車輛をつくるまでには現地人との交渉など、あらゆる能力が必要となる。この大仕事をミャンマー駐在員のSVAの中原重紀所長が勤められた。



宿場街はこうしたバラックが並ぶ



国土は日本の1.8倍 人口半分

中原さんは二〇〇一年からタイに所在するミャンマー難民キャンプで図書館運営活動を行われて、このピーでの事務所開設にもあたられた女傑である。中原さんの案内で現地の図書館も見学させていただく。ミャンマーではこれまで大人用と考えられていた図書館にSVAは子供用のスペースを設けることに成功している。しかしながら、まだまだ絵本が少なく状況で、本棚には空が目立つ。現地の職員も子供スペースのためだけに増員することができず、もともと図書館に配属されていた人数で切り盛りしているという。支援事業はようやく器が整備されだしたばかりで人、物ともに中原さんの思う水準には達しておらず、より多くの支援が必要な状況を確認して図書館を後にした。

到着したピーではミヤレイヨン寺院小学校にて校舎の贈呈式に参列し、大変な歓迎を受けた。ミヤレイヨン小学校は小さな野球場ほどある寺院小学校である。その敷地に六個ほど



移動図書館は1台30万円程度



荷台部分が展開して、図書館に早変わりする優れたもの

の校舎が立ち並んでいる。どの校舎も大きさは二〇畳ほどで、コンクリート造りの校舎とトタン屋根の粗末な校舎が入り混じっている。粗末な校舎は床があるタイプの校舎と、地べたの上に屋根だけがある校舎があり、壁もないので、雨季には大変な状況が容易に想像できた。また、床がある校舎も床自体が極めて粗末で、歪みと隙間だらけで鉛筆を机においてもすぐに転がり落ちるような有様である。寺院学校を日本の寺子屋に比喻する解説も多く見受けられるが、日本寺院のような堅牢さとは無縁の掘っ立て小屋こそが彼らの校舎である。それでもこの校舎があることで、ここに子供達が集い、教育の機会を得ることができるのだ。

コンクリート造りの校舎はそのような不便さを解決するために、SVAはじめ支援団体が寄付したものである。コンクリート造りとはいえ、日本のような何もかもが装備されている建物ではなく、屋根と壁と床、加えて照明があるだけの建物だ。聞けば一棟あたり八〇〇万円で建設すること



児童スペース。左が中原さん。



絵本がまだまだ足りない。

ができるといい、日本の建設費とは段違いである。つまり、今より多くの支援を寄せてもらうことができれば、もともとのコストが低いために劇的に現状が改善される可能性がある。

小学校五年生によるスピーチをご紹介します。

「雨風が強い時期の旧校舎での勉強は特に大変でした。また、旧校舎では十分なスペースがなく椅子と机の状態もよくありませんでした。(中略) この寺院学校、さらにはこの国を発展させられるように努力していきます。」

ミャンマーでは識字率と小学校入学率がそれぞれ九五%を超え、この数字だけであれば十分に教育先進国である。しかし、小学校卒業時にはこれが卒業率七三%と落ち込む。日中に児童と思われる少年がウェイターや農作業をしている姿を見れば、家事手伝いに多くの時間が割かれ卒業が困難になっているのがわかる。そして大学進学率は十%となり、さらに大学を卒業した者の国内就職率は二〜三割に過ぎないという現実に収束する。なるべく無償かつ、充実した教育を拡充すること



床も壁もない教室



床板が歪み、椅子もいたみが激しい。



ドーワナティリ師(尼僧)

名な人物で日本のNHKもミャンマーのマザーテレサというタイトルで特集したことがある。ドーワナティリ師は四〇歳のときに七人の孤児を引き取り、孤児院を始めた。当初は何もないところに小屋を建て子供と身を寄せ合って生活していたそう。現在は二五七名の孤児がいて、式典にも多くの児童が参列してくれた。小さい子は乳児からほとんどの子供は五〜八歳くらいに見えた。多くの子供達はタナカという日焼け止めを顔に塗りたくって、私たち一行が何者なのか、興味深そうに眼を見開く様子がとても可愛らしい。と同時に



新教室。同様の部屋が4つある。

がこの国の発展と平和への鍵だ。

三日目、我々はヤダミンズリ孤児院を視察した。SVAが寮施設を寄付したので、その返礼の式典に参加する為である。この孤児院と尼僧である校長先生のドーワナティリ師(四九歳)は国際的にも有

に、この子供達が孤児であると思うと、慚愧に耐えない。

児童の多くは内戦の影響で孤児になった。村を焼かれ、逃げ惑ううちに地域の寺院に保護され、ここに連れてこられたという。ここには寮として使用されている建物が五棟ほどあり、今回寄付されたコンクリート造りの女子寮を除けばあとはすべて掘っ建て小屋だ。それでも子供達にすれば家を焼かれ、殺される恐怖から逃れることができ、安心することのできる場所であるらしい。

孤児院ではそれぞれの部族の言語を話すルールだ。共用語はビルマ語としている。違いを前提として、相互に受け入れることが求められる。何か問題があった場合には話し合いで解決することになっている。どのような子供にも話す権利があるということとを普段から徹底しているという。彼らのルーツと、孤児となった原因、その因果を打ち破る教育だ。

その後、移動図書館の活用事例を見学する。さて、児童が絵本を読むという当たり前の行為で



孤児院には幼い子供達も大勢暮らしている。

ある。落ち着かない仕草でも行儀よく待つ児童。待ち切れずのぞき見る児童には年長者が指導をして回る。ようやく読んで良いとの号令がかかり次第、児童が絵本に取り掛かる。

このときのこの様は「目をキラキラさせて」などの単位あたりの心理描写では解決しない。群像である。一斉ではあるがよくルールを守り、貪るような児童はない。自身の位置の近くに置いてある本を手取る。それを黙々と、まさに黙々と読む。終われば元に戻し、すぐに違う本を読む。娯楽が少なく、学びこそが娯楽であるということが、そうした世代にない私には迫力となって伝わってきた。

途中、児童からのスピーチが印象的だった。

「私は七歳でここに来ました。私は自分が孤児だと感じたことはありません。お母さん先生たちがいつもいます。私は勉強し、大学に行きたいと思います。日本のお父さん、



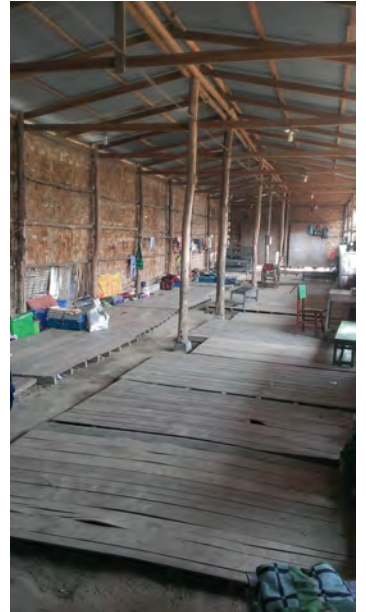
移動図書館を子供達は心待ちにしている。

お母さんに感謝していますー」

プログラムは進行する。私たちは彼らにその日の昼食を布施した。昼食の前に施主（我々）に向かい児童がお経を唱える。曹洞宗では五観の偈として知られている儀礼だが、日本のそれに比べて大変長く（長いときには三〇分充てられるという）。食事のありがたさを、文字通り身に沁みさせている。児童にふざけるものはいない。この長いお経の中、小さい子供は合掌を額に接しながら一生懸命に神妙にしている。これを見て、食事を粗末にするものはいない、そういう光景であった。私たちは施設を一つ一つ紹介された。現在二五七名が暮らす本孤児院は寺院の運営であるからその源泉は寄付である。今回は思春期を迎えた女子生徒が他生徒と隔離した状態で暮らすことのできる寮が寄付された。生徒数は飽和状態であるから旧施設も継続使用せねばならない。この旧施設には、先の小学校と同じく床と呼べるものはない。土の上に隙間なく、



五観の偈、祈りは真剣そのもの。



この小屋にも児童が寝起きする。

湾曲したスノコが敷かれているのみである。ここを幼い児童が家としているという…。同行の横澤師が私に「椎野君の子供をここに寝かせられるかい？」と聞いたが、私はだまって首を振るよりなかった。

その夜、SVA若林会長より、視察旅行の感想を求められた。心情はこの厳しい現実「絶句した」という、感想にもならない表現のみが適当である。体面を保つためか、良心の呵責か、「私になにができるか…」などと蛇足した。やや混乱の面持ちで話す私に近藤師が「見るだけで良い。見ることが大事である。」と諭した。

おわり

あとがき

まず、本旅行が可能になりましたのは、一重に檀信徒のご支援によるものです。本稿をお借りして厚く、御礼申し上げます。また、現地で手厚く接待していただきました現地SVAスタッフの皆さまにお礼申し上げます。同行した若林会長、近藤師、横澤師とボランティアに携わる方々のタフさに舌を巻きました。人を助ける人間は自らがまず強靱でなければならぬということをこの旅で身に染みて学べたように思います。

SVAの活動にはまだまだ資金が足りない状況です。見ることで自体がなかなか困難な距離ですが、本稿の読者の方にSVAのホームページや記事などを「見る」ということをお願いしたく思います。現地では過酷な環境を克服する成果がありながら、正当な評価が得られていない状態です。是非関心を寄せていただき、「見る」という一歩を踏み出していただければと、重ねてお願い申し上げます。

合掌

SVAホームページ

s v a . o r . j p . SVAで検索

TEL 03-5360-1233

平成二十八年年回表

一周忌	三回忌	七回忌	十三回忌	十七回忌	二十三回忌	二十七回忌	三十三回忌	三十七回忌	五十回忌	百回忌
平成二十七年	平成二十六年	平成二十六年	平成二十六年	平成二十六年	平成二十六年	平成二十六年	昭和五十九年	昭和五十五年	昭和四十二年	大正十六年

行事予定

仏像彫刻体験教室 《どなたでも参加できます》

日時：毎月第1・第3水曜日
13時30分～16時30分
費用：3,500円 / 1回参加
場所：真光寺（参加者が3名以上で開催となります。）

仏師の方にご指導頂き仏像を彫っていきます。教室では初めての方でもご参加いただけます。それぞれの方に応じたペースで、除々に立体に取り組みます。どなたでもご参加頂けますので興味のある方は是非ご連絡ください。



丁寧に指導いたします

精進料理と聖典講読の会

日時：3月30日・4月27日・5月24日・6月29日
7月26日
午前11時～午後2時半
費用：3,000円（昼食付）

場所：真光寺
内容：住職による仏教解説の後、一緒に食事をして、午後は坐禅や写経をいたします。どちらも老若男女問わず気軽にご参加申込み下さい。



住職が詳しく解説いたします

行事予定

山門春彼岸法要

《檀信徒》

日時：3月20日（日）14時より
春のお彼岸供養を行います。法要後には余興を予定しています。

花まつり法要・檀信徒総会

《檀信徒》

日時：4月3日（日）11時より
お釈迦様の誕生をお祝いします。法要後に檀信徒総会を行います。

紫陽花の会

日時：3月31日（木） | 6月30日（木）
4月28日（木） | 7月27日（水）
5月25日（水） |

午前11時より午後2時半頃
費用：1,000円 昼食付（精進カレー）
境内や樹木葬墓地の管理に、ご協力をいただく会です。午後は、畑仕事や味覚も楽しい企画を考えておりますので、是非ご参加下さい！昼食の精進カレーも大好評です。
※ご出席いただく場合はご予約が必要です。
※送迎有り（次項午前の時間）

縁の会春彼岸法要

《縁の会会員》

日時：3月21日（月）11時より
縁の会合同での春彼岸法要を行います。
午後は1時半より弁護士の方を招いて相続セミナーを開催いたします。 弁当付。
※ご出席いただく場合はご予約が必要です。
※午前のみ、午後のみのお出席もできます。
※送迎有り（次項午前の時間）

七日法要

《縁の会会員》

日時：4月7日（木）11時より **授戒式**・月例供養、昼食（お弁当）午後には花まつり法要と植樹祭
5月7日（土）11時より **授戒式**・月例供養、昼食（精進料理）午後には坐禅・写経・写仏
6月7日（火）11時より **授戒式**・月例供養、昼食（精進料理）午後には坐禅・写経・写仏
7月7日（木）11時より **授戒式**・月例供養、昼食（お弁当）午後には施食法要

※ご出席いただく場合はご予約が必要です。午前、午後のみのお出席もできます。 ※送迎有り（次項午前の時間）
※7月7日の午後、8月6日午前・午後はお盆の施食法要を行います。詳細は6月下旬発行の寺報にてお知らせ致します。

ご詠歌練習日

3月 8日・22日 | 7月 5日・19日
4月 12日・26日 | 8月 2日
5月 10日・24日 | 9月 13日・27日
6月 14日・28日
時間 19時半より（5月以降は20時より）
※ご詠歌はどなたでもご参加できます。気軽にお問い合わせください。

真光寺囲碁の会

日時：4月1日（金）～2日（土）
6月13日（月）～14日（火）
14時から翌日13時30分解散
費用：8,000円 1泊3食
桜の咲く時期、静かなお寺で囲碁をうちませんか？
初心者から有段者までいろんなレベルの方がいらっしゃいますので是非この機会に挑戦してみてください。日帰りのご参加も可能ですのでお問い合わせください。
※送迎有り（次項午後の時間）

戒名を考える会

《縁の会会員 特に未授戒の方》

日時：6月8日 午前11時より午後2時半頃
費用：3,000円（昼食付）
定員：20名
戒名を考えることは、人生を振り返ることです。午前中は戒名にまつわる仏教知識を学び、昼食に精進料理を頂きます。午後は住職指導のもと、実際に戒名を考えます。考えた戒名は後日の授戒式にて正式に住職よりお授けし、位牌に刻銘の上、観音堂にご安置します。
※ご出席いただく場合はご予約が必要です。
※送迎有り（次項午前の時間）
※持ち物：漢和辞典